

ちょっと気になる八王子マガジン



特集

はち  
ちと  
ぴ



# 八王子の姉妹都市

2024年 涼風号

## No.57

### Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



八王子城跡、千人同心屋敷跡記念碑と各都市の風景  
樽前山（左上・苫小牧市提供）、湯ノ湖（右上・日光市提供）  
曾我梅林と富士山（左下・小田原市提供）、風布川（右下・寄居町提供）

八王子市は、なぜこのまちと姉妹都市に？

## 八王子千人同心の縁 北条氏の絆

あなたの身近な姉妹都市

## 市民とつくる交流の歴史

そうだ、あのまちへ行こう

## 八王子の姉妹都市情報まるわかり

ご案内

コラム 八王子の民俗誌③

コラム 八王子自然探訪⑨

私の本はこうして生まれた 其の五十七

株式会社清水工房創業55周年記念 「揺籃社出版即売会」

南大沢の道春塚と鍮水の炭の境界 佐藤 広

小田原の梅林を歩く 粕谷 和夫

『定本 大久保石見守長安—江戸幕府創成期を支えた総代官・年寄衆の功績』 和泉清司 著



行って  
みよう

## 勇武津資料館

北海道苫小牧市字勇払132番地32

苫小牧市市制施行50周年、八王子千人同心移住200年を記念して、2001（平成13）年4月1日に開館。建物は勇武津会所の外観にちなんで建てられ、当時の生活をしのばせる調度品、弁天貝塚から出土した資料などを展示している。

開館時間：10時～17時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は次の平日）、年末年始



\*写真は苫小牧市提供

た。

その妻、梅は八王子から連れてきた長男、橋太郎（当時2歳）を育て、新天地で女兒をもうけたのですが、慣れない土地での心労が重なり、25歳の若さで永眠してしまいました。

その後、河西はアイヌの漁業権争いを調停するなどの功績を挙げたのですが、1807（文化4）年、37歳のときに巡察にあたっていた有珠で客死してしまいます。遺児たちはいったん八王子へ帰りましたが、橋太郎は成人すると父の跡を継ぎ、有珠善光寺に

両親の墓を建てて供養しました。この逸話は、苫小牧市に今も「夜泣き梅女」の伝説と共に語り伝えられています。

### 今に残る開拓の礎

勇払を起点とした、原兄弟や河西ら八王子千人同心による開拓は結果として成功したとは言い難いものでした。ただ、彼らの足跡が明治時代から本格化する北海道開拓に引き継がれ、今日のまちづくりの礎になったことから、苫小牧市内には千人同心を敬って築かれたモニュメントがたく

さんあります。

たとえば「蝦夷地開拓移住隊士の墓」は、この付近に散在していた墓碑を1955年に一堂に集めたもので、ここには勇払で亡くなった8人の同心と河西祐助の妻、梅の墓があります。この史跡はのちに、1973年の苫小牧市開基100年記念事業の一環で整備された「勇払開拓史跡公園」に移設されました。

史跡公園に隣接する勇武津資料館には、八王子千人同心をはじめとした開拓関係の歴史資料や、八王子市から寄贈された織機を展示。また、苫小牧市立美術博物館では、2階の「開拓のあゆみ」コーナーで八王子千人同心ゆかりの武具などを展示しています。ほかに、苫小牧市民会館前には千人同心を顕彰した勇払原野開拓記念碑が建つなど、苫小牧市にはいまでも街中に千人同心の開拓の証が残っています。

### 日光火の番のために

栃木県日光市と八王子市は

1974年に姉妹都市盟約を結んでいます。これは千人同心が1652（慶安5）年から幕末の1868（慶応4）年まで、210余年にわたって日光東照宮の防火と警備を勤めた縁によります。

千人同心の日光での公務は「日光火の番」と呼ばれ、境内や町内を見回り、いざ出火となれば消火活動にあたるものでした。大きな消火活動としては、焼失家屋700戸余りといわれる1684（貞享元）年の大火災や、1812（文化9）年の大薬院炎上などが挙げられます。

日光火の番は千人頭2人と同心100人が50日交替で在勤していましたが、1791（寛政3）年からは千人頭1人に同心50人で半年交代の在勤となります。八王子から拝島、松山、佐野を経て、日光まで約160kmの道のりを4日間かけて歩いていきま

### 日光を守り抜く

幕末になると、戊辰戦争の



千人町の興岳寺にある石坂弥次右衛門の墓

際に新政府軍が日光へ攻め込んできました。このとき、日光にいた千人頭、石坂弥次右衛門は戦鬪を避けて新政府軍に明け渡したことから、日光は戦禍に巻き込まれずに済みました。ところが、石坂が八王子に戻ってくると、戦わずして日光を明け渡した責任を問われ、石坂は切腹してしまいます。（「はちとび」50号参照）

このように江戸時代の長きにわたって日光を守ってきた千人同心の活躍を顕彰するため、東照宮の参道を下りてきた突き当たりのところに、日

行って  
みよう

## 浄光寺

栃木県日光市匠町7-17

1640（寛永17）年に現在地に移転して「浄光寺」と称し、この地域の菩提寺となる。本尊は春日仏師作と伝えられる阿弥陀如来三尊坐像。本堂は1973（昭和48）年に増改築され、境内には日光火の番で客死した千人同心の供養のために建てられた「防火隊碑」（写真）のほか、日光山最古の梵鐘など史跡が数多くある。



▲日光山内表参道付近にある日光火之番八王子千人同心顕彰之燈

光市・東照宮・輪王寺・二荒山神社・八王子市によって1958年、「日光火之番八王子千人同心顕彰之燈」が建立されました。  
また、日光市匠町にある浄

光寺には、日光で亡くなった隊士を弔うために建てられた防火隊碑もあります。これは1652年から1814（文化11）年までに日光で客死した10名の供養が在勤頭の原半

左衛門によって行われ、1834（天保5）年に在勤頭の山本金右衛門が、同志の協力を得て建てた碑です。

### 北条氏の拠点、小田原城

神奈川小田原市との姉妹都市盟約は、八王子市が市制100周年を迎える前年の2016年に締結されました。また、同日、埼玉県寄居町とも姉妹都市盟約を結んでいます。

かつて広く関東を治めていた北条氏の縁があり、これまでも互いに「元八王子北条氏



▶小田原城

照まつり」や「小田原北條五代祭り」、「寄居北條まつり」に参加するなど、長年にわたる活発な市民交流が行われてきました。  
戦国時代に北条早雲が小田原城を攻め落として以降、北条氏は小田原を拠点に勢力を拡大し、5代100年にわたって関東一円を支配していました。3市町がかかわりを持つのは3代目当主、北条氏康のころ。氏康は要所に城に自分の子どもを戦略的に配置し、三男の氏照を八王子城、四男の氏邦を鉢形城（寄居町）に置き、後の4代目当主

の氏政に小田原城を統括させます。  
上杉謙信や武田信玄からの侵攻にも耐えた小田原城は難攻不落の城といわれ、周囲9kmに及ぶ総構を構築し、戦国最大の規模を誇る城郭でもありました。しかし、1590（天正18）年の豊臣秀吉の小田原征伐によって、小田原城は開城し、秀吉の全国統一がなされます。北条5代目当主の氏直は高野山に追放され、父氏政と弟の氏照は城下の田村安斎邸（現・小田原市南町）で自刃しました。

行って  
みよう

## 北条氏政・氏照墓所

神奈川小田原市栄町2-7-8

北条氏4代目当主・氏政と、その弟で八王子城主・氏照の墓所。小田原城主が稲葉氏の時（1633～85）に北条氏追福のため整備された。1923（大正12）年の関東大震災で墓所が埋没する被害を受けたが、翌年地元の有志により復元。3基の五輪塔や、この上で自害したと伝わる生涯石などがある。ここでは願い事をかけて鈴を持ち帰り、願い事が叶ったとき、鈴を納めるのがならわしとなっている。



# 甲冑姿で盛り上がる 3市町のお祭り

(いずれも2023年のようす)

\*写真はNPO法人八王子城跡三ツ鱗会提供

▶元八王子北條氏照祭り



▶小田原北條五代祭り



▲寄居北條まつり

## 鉢形城とのつながり

埼玉県寄居町にある鉢形城は荒川の崖の上につくられた戦国時代の名城です。八王子城と同じく、1590年に豊臣秀吉の5万人の大軍に攻められました。3500人の兵力で1か月余り戦い続けたといいます。

学術的な価値の高さから国指定史跡や日本百名城にも選出されていて、現在は馬出や堀・土塁などが復元整備されています。

さまざまな交流を通じて、



▶鉢形城跡空撮(寄居町提供)

互いに魅力あふれるふるさとづくりを進めるため、3市町の観光協会は「北條三兄弟三領共同宣言」を1994(平成6)年に締結しました。さらに2011年には、北条氏をテーマとしたNHK大河ドラマの実現を目指すべく、「北条五代観光推進協議会」を設立。関東圏を中心にした14市町とその観光協会が参加し、50万人の目標を立てて署名活動をしています。「民を豊かにし、国を豊かにする」という北条氏の領国経営は、現代のまちづくりにも通ずるものがあるといえる。

行って  
みよう

## 玉淀河原

埼玉県寄居町大字寄居489番地ほか  
玉淀は、荒川が秩父の山地から平野部へ移り変わるところで、この流域沿岸約3kmの地域の総称。1935(昭和10)年に県指定名勝として指定を受ける。荒川の清流を見下ろす道路に沿って桜並木があり、鉢形城の絶壁や広々とした浅瀬の河原が独特の景観をつくり出している。毎年「寄居北條まつり」も開催される。

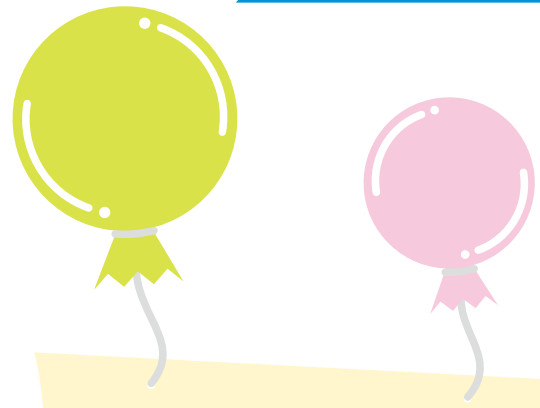


▶2016年の小田原市・八王子市・寄居町姉妹都市盟約締結式(八王子市広報プロモーション課提供)



しょう。

近年では三都市を結ぶ圏央道の開通により、相互交通の利便性が高まり、交流人口の増加も期待されています。



あなたの身近な姉妹都市

市民とつくる

# 交流の歴史

50年以上続く姉妹都市交流の歴史の中で、八王子市は苦小牧市・日光市・小田原市・寄居町と、各地の特色を活かしたイベントを行ってきました。ここでは各都市との数多ある交流の一端をご紹介します。

## 苦小牧市、姉妹都市 締結50周年を祝う

2023年、八王子市との姉妹都市締結50周年を迎えた苦小牧市は、さまざまなイベントを開催しました。市役所や図書館、美術博物館で、八王子に関するパネルや書籍などを展示(①)。8月には、苦小牧市内にある八王子ゆかりの8か所を巡るデジタルスタンプラリーを実施したほか、八王子市郷土資料館学芸員による千人同心の講演会が開かれました(②)。11月に

は八王子車人形の公演やワークショップが開催されるなど、市を挙げて八王子との交流を盛り立てました。

八王子市内では、はちほくで企画展「八王子と苦小牧」千人同心が「つないだ絆」を開催(③)。さらに中央図書館でも共通テーマを掲げて展示し(④)、苦小牧市を紹介しました。

## 小中学生交流事業

日光市といえば、八王子市の小学6年生が移動教室で訪

れる場所でもあります。また、苦小牧市、日光市とは、夏休みに小中学生交流事業を開催しています。

昨年は7月に苦小牧市、8月には日光市の小中学生が八王子市を訪問(⑤⑥)。小中学生との交流や千人同心ゆかりの場所を訪問したりして交流を深めました。苦小牧市の子どもたちが訪れた際には、苦小牧市のキャラクター「とまチョップ」と八王子市の「八王子車人形」をそれぞれモチーフにしたマンホールの蓋を交換しました。

八王子市と各姉妹都市の交流のようす



▲苦小牧市の小中学生による八王子市とのカラマンホール交換式典 (苦小牧市提供)



▲苦小牧市での講演会「八王子のまちの歴史と千人同心」(八王子市郷土資料館提供)



▲苦小牧市中央図書館の郷土資料室 (苦小牧市提供)



▲日光市の小中学生によるはちほく見学 (日光市提供)



▲八王子市中央図書館の展示 (八王子市中央図書館提供)



▲桑都日本遺産センター八王子博物館(はちほく)での企画展 (八王子市郷土資料館提供)

## マンホール交換

下水道事業への関心の喚起やイメージ向上、観光の一助とする目的で、2017年のいちよう祭りにて八王子市、小田原市、寄居町の3市町独自のデザインが施されたマンホール蓋交換式を開催しました。八王子市では八王子城跡管理棟前の道路、小田原市では小田原かまぼこ通り、寄居町では玉淀河原へ向かう道に次の3種のマンホール蓋が設置されています。

### ◆小田原市「酒匂川」(7)

歌川広重の東海道五十三次の小田原宿をモチーフに市内を流れる酒匂川さかガハと小田原城、箱根連山、霊峰富士をデザイン

### ◆八王子市「車人形」(8)

人形芝居や歌舞伎の幕開けに舞台の無事を祈ったり、豊作を願う演目「三番叟」の舞いをデザイン

### ◆寄居町「キジ・カタクリ・ヤマザクラ」(9)

町の鳥のキジを中央に、右に町の花のカタクリ、左に町

の木のヤマザクラをデザイン

## 3枚つながりの御城印

2023年は、北条2代目当主の北条氏綱によって「伊勢」から「北条」への改姓(改称)が行われた小田原北条氏誕生500年目の年でした。これを記念して、八王子市、小田原市、寄居町では、自治体の協働事業として、それぞれの市町が擁する小田原北条氏の城郭の記念御城印が作成され、10〜12月の3か月間販売。並べることによって絵が完成していました(10)。

## 子どもたちの給食も

八王子市内の小中学校では、毎年姉妹都市に関連した給食を提供しています。苦小牧市に関するものでは、これまで北雪牛やホッキ貝が提供されたほか、昨年は開拓井(豚肉や大豆を北海道の大地に見立てて、道産とうもろこしを使って開拓時代を表現)、とまこまいカレーラーメン風

スープ、ヨーグルト用にハスカップソースが提供されました(11)。日光市のゆばを使った献立や、小田原市のかまぼこの和え物、寄居町のトントロリンスープなど、各地ならではの給食メニューが提供されています。こうした給食の日には、各都市の情報を食育メモとして教室に掲示するなどして、子どもたちにその意味を伝えています(12)。

## 姉妹都市交流の証を探して

八王子市役所1階には姉妹都市交流を紹介するスペースがあります。南玄関には、各姉妹都市を紹介したパネル展示がある(13)ほか、正面玄関そばには昨年苦小牧市と交換したマンホールの蓋が展示されています(14)。市役所入口にある新型コロナウイルス対策用の木製足踏み式消毒スタンドは、2022年に日光市から寄贈されたもの。日光市産ヒノキで作られた50台のうちの1つです(15)。姉妹都市交流の証をあなたも見つけてみませんか？



▲小田原市デザインのマ  
ンホール



▲八王子市デザインのマ  
ンホール



▲寄居町デザインのマ  
ンホール



▲苦小牧市の郷土料理や特産品を使った給食(八王子市学校給食課提供)



13 ▲八王子市役所南玄関近くにある姉妹都市紹介パネル



▲苦小牧市と交換したマンホール蓋



▶日光市から寄贈された消毒スタンド



12 ▲苦小牧市の給食提供時に掲示された食育メモ(八王子市学校給食課提供)

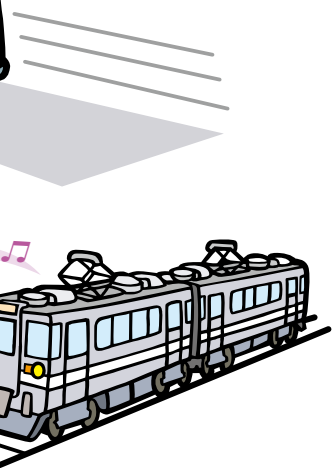


▲2023年10〜12月に販売された3城の御城印(八王子市文化財課提供)



そっだ、あのまちへ行こう！

# 八王子の姉妹都市



苦小牧市は札幌市から南へ約50km、八王子市からは約800kmの距離にある北海道南西部の都市。道内の港で取り扱われる貨物量の半分以上を担う国際拠点港湾「苦小牧港」、千歳市とまたがる北海道の空の玄関口「新千歳空港」を備える工業・港湾都市でもある。

1910（明治43）年に操業を開始した製紙業のほか、自動車関連産業や火力発電所、石油備蓄基地をはじめとするエネルギー関連企業を擁している。また、ホッキ貝の漁獲量は日本一を誇るなど、漁業も盛ん。

「ハスカップ」が自生する勇払原野や、日本で初めてラムサール条約に登録された「ウトナイ湖」など、自然環境にも恵まれている。

名前の由来はアイヌ語で沼を意味する「ト」と、山奥に入っていく川の意味「マコマイ」をつなげて「トマコマイ」と呼ばれるようになったことから。

2004（平成16）年には駒大苦小牧高校が全国高等学校野球選手権大会で北海道勢として初優勝。2011年から公式キャラクターとして「とまチョップ」が活躍している。

日光市は栃木県北西部に位置し、八王子市から約120kmの距離にある。2006（平成18）年に今市市・日光市・藤原町・足尾町・栗山村が合併。関東地方最大（全国第3位）の広さとなり、栃木県の面積の約4分の1を占めている。

8世紀末に勝道上人<sup>しょうとうしやうじん</sup>によって開山された日光は、山岳信仰の聖地として崇拝され、17世紀には徳川家康の霊廟、東照宮が建立される。1999年、日光山内にある103棟の建物群とこれらを取りまく遺跡（文化的景観）が、世界遺産として登録された。

江戸時代には門前町として、また日光街道・例幣使街道<sup>れいへし</sup>・会津西街道の結節点の宿場町としても栄えた。「日光を見ずして結構と言ふなかれ」という言葉があるように、国内有数の観光地・景勝地として知られ、世界遺産に選出された貴重な歴史・文化遺産や随所に豊富に湧出する温泉など、多様な観光資源を備えている。

また、2005年には湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原の区域がラムサール条約湿地に登録された。日光国立公園をはじめとして豊かな自然環境にも恵まれている。

## 特急 八王子 → 苦小牧市

- ◆姉妹都市盟約年：1973年
- ◆アクセス
  - ・飛行機：羽田空港から新千歳空港まで約95分、新千歳空港から電車またはバスで約1時間
- ◆面積：561.58km<sup>2</sup>
- ◆市の木：ナナカマド
- ◆市の木の花：ハスカップ
- ◆市の草の花：ハナショウブ
- ◆市の鳥：ハクチョウ
- ◆市の貝：ホッキ貝



▲ウトナイ湖（苦小牧市提供）

## 特急 八王子 → 日光市

- ◆姉妹都市盟約年：1974年  
(2006年に再盟約締結)
- ◆アクセス
  - ・自動車：八王子市から圏央道、東北自動車道などで約2時間30分
  - ・電車：八王子駅からJR線、東武鉄道などで約3時間
- ◆面積：1,449.83km<sup>2</sup>
- ◆市の木：モミジ・シラカバ
- ◆市の花：ニッコウキスゲ・ヤツオツツジ
- ◆市の鳥：カワセミ・ウグイス
- ◆市の魚：ヒメマス・イワナ

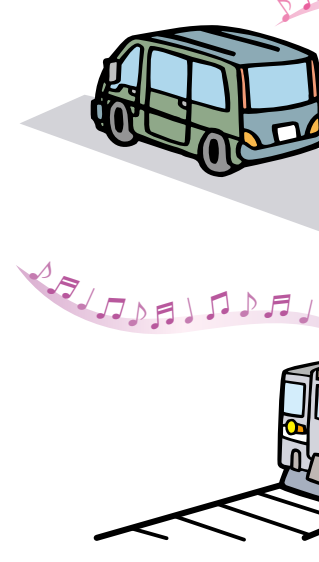
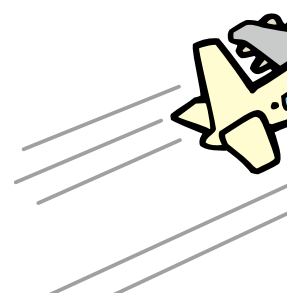


▲杉並木（日光市提供）



# 情報まるわかり

苦小牧市 ○ 日光市 ○ 小田原市 ○ 寄居町



小田原市は神奈川県西部の中心都市。戦国時代に北条氏の関東支配の拠点として整備・拡張され、江戸時代には東海道屈指の宿場町として栄えた。

明治時代より政財界人や文化人たちの別荘・居住地としても愛されてきた。

1年を通して温暖で、東京に比べると夏は涼しく、冬は暖かい気候が特徴。こうした気候がウメやミカンなど、多くの農産物の成長を支えている。西部は箱根連山につながる山地、東部は曾我丘陵、市の中央には酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成し、南部は相模湾に面している。

市内のメイン観光地、小田原城は1870（明治3）年に廃城となり、天守をはじめ建物は取り壊された。1983（昭和58）年から史跡整備が本格化し、現在は城址公園が国指定史跡・都市公園に指定されている。天守閣最上階からは市街地や相模湾などを一望でき、公園内には郷土文化館のほか、侍や忍者について学べる施設がある。

毎年5月に行われる「小田原北條五代祭り」では、北条氏の歴代城主を模した武者行列などが勇壮に市内を練り歩く。

寄居町は埼玉県北西部に位置し、荒川が秩父の山間から関東平野に流れ出す扇状地の要に発達した町。町の一部が県立長瀨玉淀自然公園に指定されるなど、豊かな自然に恵まれている。

町域の中央を荒川が屈曲しながら流れ、全国「名水百選」に選ばれた風布川や日本水を擁し、町全体が国土交通省により「水の郷」として認定されている。また、林野庁の「水源の森百選」にも選ばれていて、全国でも数少ない「水の三冠王」認定の町となっている。百畳敷岩から枯れることなく湧き出る日本水と、この水を源流の1つ

として流れる風布川には、夫婦岩、夫婦滝、狼淵、姥宮神社の胎内くぐりなど、多くの名勝がある。

豊臣秀吉の小田原攻めを再現した「寄居北條まつり」が毎年行われ、武者姿をした市民による市街地パレードの後、玉淀河原で両軍に分かれての攻防戦が繰り広げられる。大砲の砲声が響き渡り、戦国時代さながらの合戦が行われる。

1980（昭和55）年に開通した関越自動車道花園インターチェンジを玄関口に、国道、鉄道が接続する交通の要衝地でもある。

## 特急 八王子 → 小田原市

- ◆姉妹都市盟約年：2016年
- ◆アクセス
  - ・自動車：八王子市から圏央道などで約1時間30分
  - ・電車：八王子駅からJR横浜線、小田急線などを乗り継ぎ約1時間30分
- ◆面積：113.60km<sup>2</sup>
- ◆市の木：クロマツ
- ◆市の花：ウメ
- ◆市の鳥：コアジサシ
- ◆市の魚：アジ・メダカ



▲ミナカ小田原金次郎広場（小田原市提供）

## 特急 八王子 → 寄居町

- ◆姉妹都市盟約年：2016年
- ◆アクセス
  - ・自動車：八王子市から圏央道・関越道などで約1時間30分
  - ・電車：八王子駅からJR八高線で約2時間
- ◆面積：64.25km<sup>2</sup>
- ◆町の木：ヤマザクラ
- ◆町の花：カタクリ
- ◆町の鳥：キジ
- ◆シンボルカラー：えんじいろ



▲荒川と中心市街地（寄居町提供）